

注

注1) 平成14年度の研究から、ICUの入室患者の特徴を示す①処置、②患者の状態という2つの指標からなる重症度基準が開発された。なお、この基準は、厚生労働省保健医療課長発平成15年3月3日保医発第03D3001号「基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取り扱いについての」一部改正についてとして、『…本改正に伴い、平成15年3月31日時点で特定集中治療室管理料の届出を行なっている医療機関においては、当該特定集中治療室内に重症者等が9割以上入院していることを示す1か月間の実績について4月16日までに所定の届出書により提出、かつ同月30日までに要件審査を終えたものについては、同月1日に遡って所定点数を算定できる者とする…』とされ、9割以上の患者が存在しなかった病棟では減算がなされることになった。

Ⅲ-4-2 重症度に係る評価票

A: モニタリング及び処置等	配点	
	0点	1点
1. 心電図モニター	なし	あり
2. 輸液ポンプの使用	なし	あり
3. 動脈圧測定 (動脈ライン)	なし	あり
4. シリンジポンプの使用	なし	あり
5. 中心静脈圧測定 (中心静脈ライン)	なし	あり
6. 人工呼吸器の装着	なし	あり
7. 輸血や血液製剤の使用	なし	あり
8. 肺動脈圧測定 (スワンガンツカテーテル)	なし	あり
9. 特殊な治療法等 (CHDF, IABP, PCPS, 補助人工心臓, ICP測定)	なし	あり
A: モニタリング及び処置等合計点		

B: 患者の状況等	配点		
	2点	1点	0点
10. 寝返り	できる	何かにつかまればできる	できない
11. 起き上がり		できる	できない
12. 座位保持	できる	支えがあればできる	できない
13. 移乗	できる	見守り・一部介助が必要	できない
14. 口腔清潔		できる	できない
B: 患者の状況等合計点			

注2) 共分散構造分析モデル (SEM) とは、「構造」+「測定」方程式と呼ばれる構造方程式で、潜在変数間の因果関係 (構成概念の仮説表明) を、測定方程式で構成概念の測定をする (潜在変数を指数変数で間接的に測定)、あるいは、「回帰 (パス) 分析」+「因子分析」=SEMともいえる。

注3) ただし、この得点化は、昨年度の重症度評価と逆向きになされている。すなわち、看護師の手間がかかる方向に、患者の状況得点は、高くなっており、患者の状況得点は、高いほど看護師の看護サービスが必要とされる。

注4) なお看護時間の推定方式は、群馬大学の関庸一教授および立命館大学の宮野尚哉教授に依頼し、検討した。

Classic DPS, 3 mm for 61-90 sheets 236
www.binderatic.com